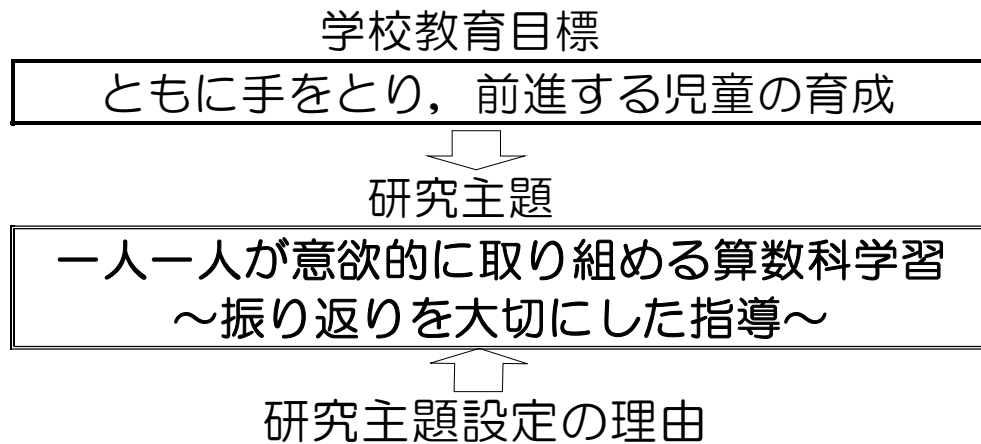
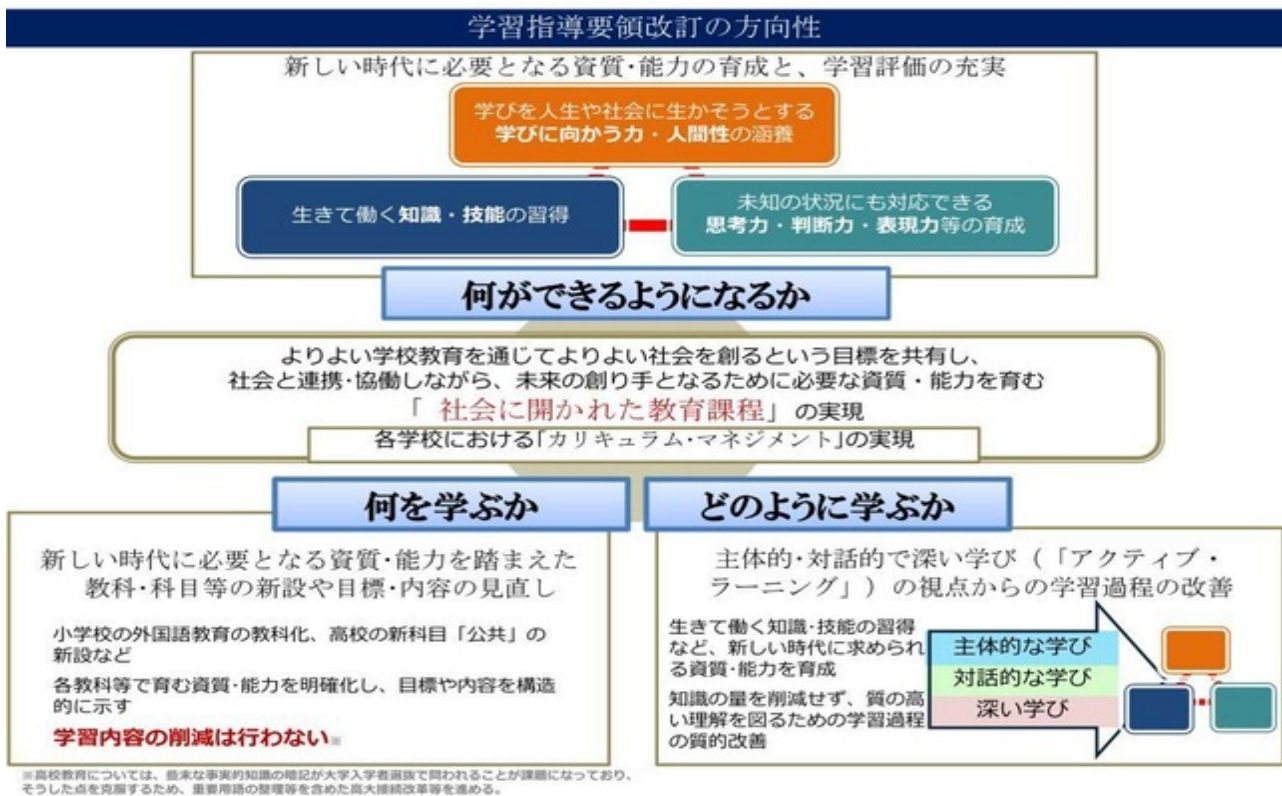


令和元年度 研究全体計画

1 研究主題の設定



(1) 学習指導要領から



新学習指導要領では、学習する子どもの視点に立ち、教育課程全体や各教科の学びを通じて、

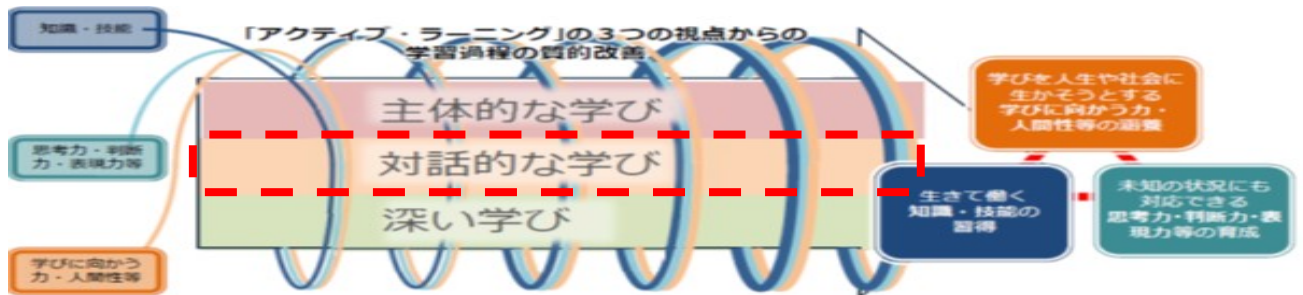
- ①何を知っているか、何ができるか（知識及び技能）
 - ②知っていることを できることをどう使うか（思考力 判断力 表現力など）
 - ③どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力，人間性など）
- という観点から、育成すべき資質・能力を3つの柱に整理された。

3つの柱を身につけさせるためには、「主体的・対話的で深い学び」実現に向けた授業改善を推進していく必要がある。

そこで、私たちは、29年度より、3年計画を立てて取り組むことにした。

(2) 3年計画の3年目「深い学び」に焦点をあてる

この3年計画というのは、「主体的」「対話的」「深い学び」の視点をただ単に、1年ごとに分けて研究するのではなく、重点として進めていくという考え。目指す姿は、「主体的・対話的で深い学び」である。



1年目（29年度）・・・「主体的な学び」に焦点を当てて

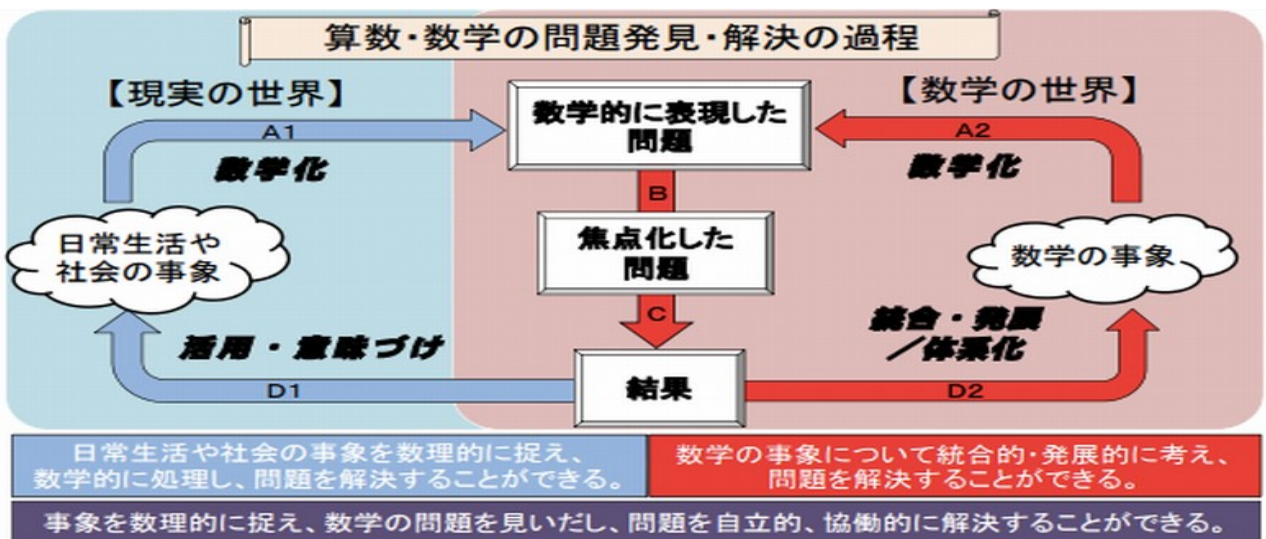
問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする姿になるように手立てを考えて取り組んだ。

2年目（30年度）・・・「対話的な学び」に焦点を当てて

事象を数学的な表現を用いて論理的に説明したり、よりよい考えについて話し合ったり事柄の本質について話し合ったりすることができるよう、教師にできる手立てを考えて取り組んだ。

3年目（★31年度）・・・「深い学び」に焦点を当てて

既習の数学に関わる事象や、日常生活や社会に関わる事象について、数学的な見方や考え方を働かせ、数学的活動を通して、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付け、知識の構造や思考、態度が変容する「深い学び」を実現するための手立てを探りながら研究を進めていく。



この図から、問題解決の過程を振り返ることは大切であることがわかる。また、振り返りを授業に位置付けることで、効果的な学び合いや学びの連続性（習得→活用→探求）が生まれることにつながっていくと考えた。

2 研究主題について

一人一人が意欲的に取り組める算数科学習 ～振り返りを大切にした指導～

《意欲的に取り組める》

- ・問題把握の場面で問いが生まれ、子ども自身の問題になり、学習のめあてが明確になり、主体的な問題解決が始まる。問題把握の場面や問題解決の場面で子どもたちの意欲的に学習に取り組む姿が見られるのではないかと考える。

《振り返りを大切にした指導》

- ・子どもたちの思考の過程や本時で子ども自身がどんなことがわかったのかを捉えるためには、振り返りが大切である。子どもたちの学習における思考の過程を通して、既習とのつながりはどうだったか、子ども自身がどんなことを理解したのか、それぞれの考えのよさは何か、自分自身の考えはどう変わったのか、が明らかになっていく。そして、友だちと学習したことよさや次の学習へのつながりを意識した主体的な学びをとくなっていく。さらに、振り返りを活用することで、その振り返りは価値付けられ、次の学習につなげることもできる。また、学習の評価としても有効である。

3 研究仮説

【研究仮説1】

振り返りを大切にしている指導をすれば、学習したことよさや既習とのつながりを意識できるようになるだろう。

今年度は3年計画の3年目である。「深い学び」を追求し、子どもたちの学ぶ姿に表れるようにしていきたい。そこで、仮説を1つに絞り「振り返り」を重点的に行っていく。

振り返りは、1時間の授業の中のいろいろな場面で行われるものである。どの場面で振り返りを行うと効果的か、また、どんな視点で振り返りをさせるかを考えることが大切である。

問題把握での振り返り

- ・昨日（前時）までとの違いはなにか。困っていることはないか。
- ・今までで使えるものないか。
- ・どうやったらできそうか。
- ・（友だちの考えを聞いて）できそうなものはあるか。

問いをもつ場面での振り返り

- ・今日困っていることはなにか。・知りたいことはなにか。

見通しをもつ場面での振り返り

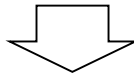
- ・習った考え方のうち、使えるものはなにか。
- ・似たような問題はないか。

問題解決、比較検討の場面での振り返り

- どんな方法で問題を解くことができたか。• 予想と比べてどうだったか。
- 友だちの考えを聞いてどう思ったか。
- 自分の考えがどう変わったか。
- 違うところはどこか。
- 自分の考えと友だちの考えを比べて、違う考えでも共通するところはないか。
- よりよい方法はどれか。
- どんなときに使えそうか。他の時にも今日の考えが使えるのか。
- 他にどんな問題ができそうか。• ○○だったらどうなるのか。

まとめの場面での振り返り

- 学習問題に戻り、どんな考え方で解決することができたか。
- どんな考え方があったか。
- 既習とのつながりはどうだったか。
- 前（前の単元・前の時間・前の学年の学習）と比べて違いはあったか。
- よりよい方法はどれか。どんなときに使えそうか。
- 友だちの考え方を聞いて自分の考えはどう変わったか。
- 友だちのよかったところはどこか。
- 自分の考えが変わったきっかけは何か。
- この考え方を使ってどんな問題ができそうか。



教師の手立て

- 単元に入る前に教材研究を行い、活用される数学的な見方・考え方を挙げておく。
- 板書を使って振り返りができるように、本時で押さえておきたい数学的な見方・考え方を板書に残す。
- ふきだしの観点を示して、児童が学習中、どのタイミングでどのように書いていけば良いかを示す。
- 考えを深めるために、教師の問い返し発問の工夫をする。
- まとめ場面での振り返りで、押さえておきたい数学的な見方・考え方にハナマルマークを付けて、児童の意識を高める。
- 学習感想を書くための観点を示し、次時に繋がる考えについては取り上げていくことで、学びの連続性を目指す。

4 研究組織

研究全体会

研究推進委員会 校長 教頭 ※教務

◎研究主任 ○副主任 ●各学年研究推進委員

※小中連携主任・副主任

低学年部会		中学年部会		高学年部会	
第1学年 ●吉川 船田 横堀	第2学年 鬼澤 松崎 ○佐藤有	第3学年 ●佐藤直 田口 高橋	第4学年 湯浅 福島 ◎栗本	第5学年 ●川邊 青井 ※川島	第6学年 ※川俣 ●村松 堂山
寺岡（日本語）		添田（少人数）		小野（音）※安藏（教務）	

5 講師

全体講師	千葉大学教育学部教授	松尾七重先生
低学年部会講師	元八千代市立米本小学校校長	塩田孝弘先生
中学年部会講師	元村上小学校校長	長谷川優先生
高学年部会講師	八千代市教育委員会指導課指導主事	小林隆義先生

6 授業研究年間計画

4月 4日（木）	研究推進委員会
4月25日（木）	研究全体会
5月15日（水）	代表研究授業
5月～6月	授業研究
6月下旬	公開単元を相談・決定
7月	児童の実態調査
7月下旬	公開研究会指導案検討①
8月下旬	公開研究会指導案検討②（児童の実態を含む）
10月 3日（木）	指導案提出
10月23日（水）	指導案提出（最終）
10月31日（木）	印刷完了
11月15日（金）	概要説明リハーサル
11月25日（月）	前日準備
11月26日（火）	公開研究会
公開研究後	公開研究会の振り返り

(1) 1学期の授業研究の学習指導案について(学習指導案の形式については別紙。)

授業研究は各学級、1学期中に1回行う。授業に力を費やすことができるように、授業研においては、略案形式。提出する学習指導案は略案だが、教材研究は仮説にかいてあるように、教材のつながり、価値を意識した教材研究を必ずすること、また、どんな手立てをすれば、意欲的に学習に取り組むようになるのか、そして、学習したことのよさや既習とのつながりを意識できるようになるのかを考え、子どもたちの力を高められるようにする。

①学習指導案の提出の仕方

(指導案検討)

- ・各部会の先生方と、校長・教頭・教務・研究主任に提出。
→授業の流れや仮説との関連、誤字脱字、用語の確認など

(指導案検討後当日までにすること)

- ・授業研究の6日前には、指導案を完成させる。
- ・完成した指導案は、Pドライブに保管する。
- ・三役の先生には、手渡しで届ける。職員室のBOXに入れる。
- ・授業研究3日前には、講師に届くようにする。(授業者が講師に届ける。)

②授業研究当日について

- ・授業記録・記録写真・講師案内・協議会の司会・協議会記録など、部会で偏りのないよう分担する。
- ・高学年の授業研究の時間は、音楽の授業はなしとする。
- ・授業記録・協議会記録は、全職員分印刷し、職員室のBOXに入れる。
- ・記録写真は、公開研究会の紀要などに使用するので、Pドライブに保管する。
(写真は、子どものノートや板書だけではなく、子どもたちの意欲的な姿や活動場面も撮影する。)

(2) 公開研究会について(昨年度と同様。研究紀要参照)

11月26日(火)。全学級展開。

- ・公開研究会の学習指導案検討については、7月と8月の2回行う。夏休み前に児童の実態を取り、8月の指導案検討で完成させる。9月は、ご指導いただいたことを踏まえて各学年で指導案検討を行い、10月3日(木)に研究主任に提出する。

(3) 公開研究会後のまとめについて

- ・公開研究会での授業の振り返りをする。成果や課題、教師の手立てをまとめる。

(4) 教材研究について

まずは、学習内容の系統性・つながりを意識したていねいな教材研究が欠かせない。教師自身が興味関心を持ち、その教材をたのしみ、子どもたちの考えやつぶやきを認めることが大切である。単元を貫いている見方・考え方やその教材のもつ価値(よさ)を意識するために、既習事項を整理して、子どもたちが使うであろう既習事項や見方・考え方を明確にしておく必要がある。授業実践や講師からのご指導を受けて、一人一人が意欲的に取り組める算数科学習に向けて、どんな手立てがポイントになるのか職員が共有できるようにまとめる。

①算数科の特性からみえるポイント

例) 領域をこえた教材のつながり 大切にしたい見方・考え方

②魅力ある授業のためのポイント

例) 子どもたちが問いをもちやすい発問

子どもたちの考えたことに対しての問い返しの発問 教材・教具